

流域治水におけるグリーンインフラ活用の先進事例調査

【研修期間】

令和5年11月13日～11月21日
(9日間)

- 訪問先：シンガポール共和国
シンガポール公益事業庁関連施設
シンガポール建築家協会等

【研修メンバー】

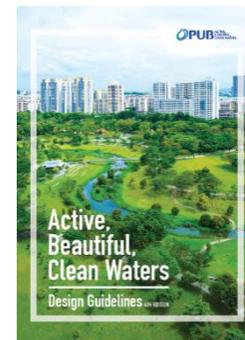
国土整備部					
河川環境課	河川海岸管理室	副主査	三塚	隆弘	
河川環境課	企画班	副主査	吉田	操	
河川整備課	海岸整備班	副主査	長田	正志	
河川整備課	一宮川流域浸水対策班				
		副主査	島村	晃司	

【背景及び課題】

- 今後も気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化が予想される。
- 河川管理者が主体となって行う治水対策を加速化させることに加え、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、「流域治水」を推進する必要がある、関係者に積極的に参画してもらうための意識醸成が課題となっている。

【目的】

シンガポール国内で取り組まれているグリーンインフラの先進的な事例を調査し、知見を得ることで、グリーンインフラの活用による「流域治水」に係る関係者の意識醸成の方法を検討する。



ガイドライン：ABC-WDG
(シンガポール公益事業庁策定)



ビシャン・パーク
(多機能型の都市型河川公園)

【調査結果】

○シンガポールでは、行政の強い権限により複数のプロジェクトを連携させることで、ガイドラインに基づいた効率的なグリーンインフラ施策を推進している。



○整備された多くのグリーンインフラの効果や実績は、可視化され様々な場所や媒体で広く情報発信されている。

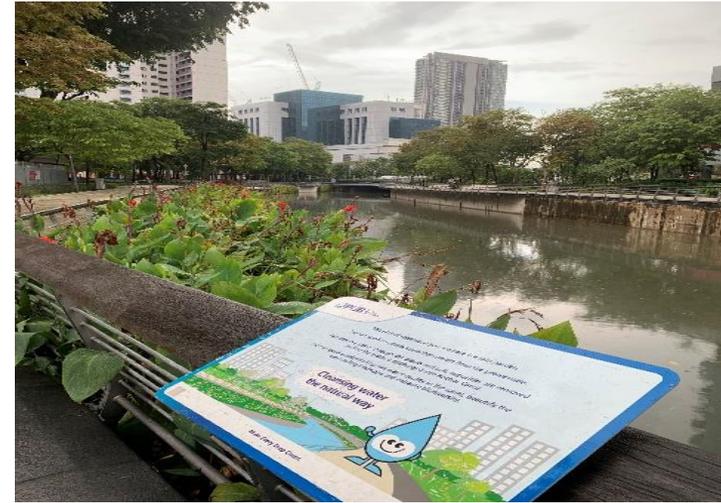


○住民の意識醸成や関係団体との連携強化など更なる推進につながっている。

【まとめ】

・関係者の意識醸成には、実績を可視化することで情報を共有し、関係者との連携強化を図ることが重要である。

・本県においても、グリーンインフラの活用を様々な媒体を用いて、広く情報発信することで、更なる関係者の意識醸成を推進していく。



レインガーデンの効果が記載された案内看板



一般市民へのヒアリング